共同作業の充実で次世代に繋ぐ経営の安定化

～優しい支援（援優）と担い手の定着（縁結）で安定経営（円有）～

北海道網走農業改良普及センター遠軽支所

1　活動の背景

北海道遠軽町は、道内でも農家人口減少率が高く、規模拡大に対応できる経営体の育成や新規参入等の担い手の受け入れ等が急務となっている。対象とした安国地区（JAえんゆう管内）も規模拡大が進み、年々労働時間が増加し、適期作業が難しく、自給飼料品質の低下や秋まき小麦の収量不安定が顕在化していた。農業者の労働負担は限界に近づいており、地域の指導農業士からも「農繁期には夜中に作業しなければ間に合わない時もあった。今いる農家が全員幸せに残っていけるような地域づくりが必要だ」との切実な声が上がっていた。

2　活動の課題・目標

農家の限界

- ①自給飼料の品質不安定
- ②労働力不足
- ③地域継続への不安

地域を考えるワークショップ

- **農業者が、将来必要な事を整理**
- **関係機関の強みを活かし、連携**

重要な課題の整理、農業者、関係機関と一体となった活動

①自給飼料の品質向上と安定生産

安国地区に住む人たちがこれからも安心して暮らしていける地域づくり

②共同作業・法人の充実で効率的な農作業の展開

③地域コミュニケーションの促進

3　活動内容・成果

(1)自給飼料の品質向上と安定生産

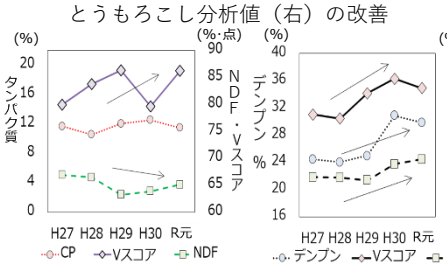
・全132筆植生調査、草地更新の提案

・土壌pH矯正作業の推進

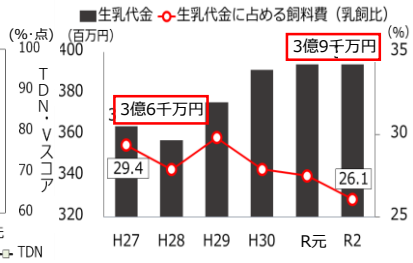
5年間で牧草割合６割以上を目指したい！！

牧草割合6割超え品質も年々向上

牧草分析値（左）とサイレージ用とうもろこし分析値（右）の改善



生乳代金の増加と乳飼比の低減



品質向上で、生乳代金の3千万円増加と乳飼比3%減の両立

(2)効率的な農作業の展開 ア 共同作業の充実

・酪農家と畑園農家の共同作業を検討し、作業ごとの技術を提案

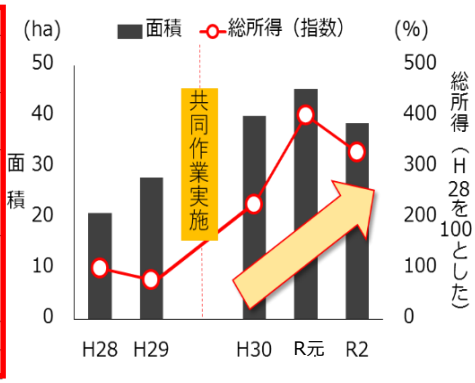
・作業負担軽減の共有

1つずつ取り組んでみよう

共同作業数の増加

作物名等	作業名	H28	H29	H30
サイレージ用とうもろこし	耕起・砕土・整地・は種・収穫	○	○	○
		○	○	○
牧草	コンビラップ	○	○	○
	耕起・砕土・整地		○	○
小麦	耕起・砕土・整地・は種		○	○
	追肥作業			○
	病害虫防除			○
共通	堆肥散布	○	○	○
	除草剤散布			○
	石灰資材投入			○
共同作業数	合計	4	6	10
共同作業延べ面積（ha）		392	598	890

秋まき小麦の面積・所得の向上



イ 法人化の検討

新たな課題

自由な輪作で生産性を向上させたい！

⇩ 大きな壁が…

7割が借地のため契約変更等大変な労力

解決策の一つ「法人化」が有力に

（一社）北海道農業会議に相談し、個々の経営は維持し農地を集約

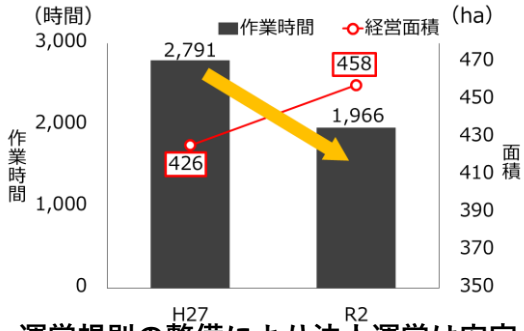
土地利用型法人の設立

ウ 法人運営の充実

運営規則の整備・作業の効率化

- 約200筆、約450haのほ場管理整備
- 法人構成員の収益分配方法
- 資材購入一本化
- 今後の農地集約
- 機械稼働時間の管理
- 機械の費用分担方法　等

農地受入と作業時間短縮を両立



運営規則の整備により法人運営は安定した

(3)地域コミュニケーションの促進

農業者の「将来への話し合いを増やしたい」でワークショップ等を何度となく企画・開催

農業者自らの活用になるよう後押し

地域が一体となって地域を支える核に

地域の未来について本音で話し合い ✕ 共同作業の開始 法人の設立

力強く持続可能な農業経営体へ前進

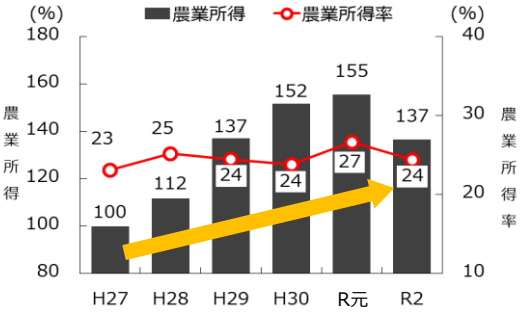
意識が変化！

次世代の担い手の育成・確保へ 地域を支える核となる自覚

地域の将来・経営方針など本音を言い合える関係性に

4　普及活動の成果

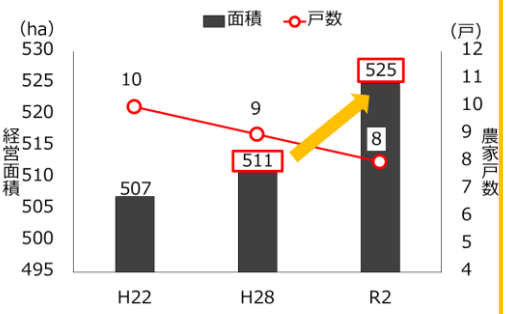
地域の所得が向上



課題の抽出と解決を重ねた

これからもここで営農できる。息子の代への光が見えた。

遊休農地をつくらず農地を守る



個別課題から地域課題に発展

	取組みによる変化	農業者の意識の変化
個別課題	自給飼料品質向上 労働負担軽減 秋まき小麦収量向上	自給飼料品質が安定して牛の管理が楽になった 適期は種で収量向上を実感
組織課題	共同作業 法人設立・運営	共同作業によって労働負担が軽減した これからもここで農業を続けていける光が見えた
地域課題	遊休農地対策 担い手受け入れ	地域の農業がもっと安心できる形を作りたい

地域の農業を守る仕組みへ

- **関係機関の得意分野を活かした支援**
- **町や農協から取り組みの波及が期待**

ー今後に向けてー

- **個々の農業者をより力強い経営体に**
- **スマート農業の推進**
- **安国地区を拠点とした、次世代の担い手確保**